

利根川・江戸川河川整備計画（原案）についての意見

(2013. 2. 26 高崎会場)

沼田市 64歳

私は、2007年に利根川河川整備計画について、公聴会において意見を述べさせていただきました。そのときには多くの方々がハッ場ダム事業への反対意見を口述されたと思いますが、それらの意見は今回の河川整備計画に反映されているのでしょうか？それとも聞き置くだけのことなのでしょうか？もしそうであるならば1997年に改正された河川法の趣旨に反することであり、民主的なやり方とはいえないと思います。今回の公聴会、パブリックコメントで出された意見につきましては、是非整備計画に入れて頂きたいと思います。

2006年から進められた利根川水系河川整備計画の策定作業では、利根川・江戸川、渡良瀬川、霞ヶ浦、鬼怒川・小貝川、中川・綾瀬川の五つの有識者会議がもたれました。今回は何故、利根川・江戸川だけなのでしょう？支川と本川は相互に関係しており、切り離して考えることはできないと思います。全国でもほとんどが水系全体の河川整備計画になっています。利根川・江戸川でも水系全体の河川計画にさせていただきたいと思います。

昨年の利根川・江戸川有識者会議につきましては、10月25日から9回にわたって会議が中止されたと聞いております。常識では考えられないことですが、その理由は何でしょうか？有識者会議の中で、治水目標流量の $17000\text{m}^3/\text{s}$ は過大であることや、カスリーン台風洪水の氾濫区域図は、氾濫するはずのない丘陵や台地の上まで氾濫したことになることなどに対してねつ造ではないかと疑問が出されています。カスリーン台風洪水の実績流量は $15000\text{m}^3/\text{s}$ 程度であったのではないとも報道されています。治水目標流量の議論をきちんと続け、情報もしっかり公開して頂きたいです。

河川整備計画原案のp.41からp.42にかけて「河川整備計画の目標流量を基準地点八斗島において $17,000\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち、河道では計画高水位以下の水位で $14,000\text{m}^3/\text{s}$ 程度を安全に流下させ、洪水による災害の発生の防止又は軽減を図る。」とあります。その差 $3,000\text{m}^3/\text{s}$ をダムで貯めて調節する案ですがハッ場ダムの洪水調節流量は $600\text{m}^3/\text{s}$ 程度と見られています。残りの $2400\text{m}^3/\text{s}$ についてはどの様に考えられているのでしょうか。治水計画と事業内容との矛盾があるのではないのでしょうか。しっかりした議論を続けていただきたいです。

ハッ場ダムの治水効果は下流に行くほど減退することが国交相の資料からも明らかになっています。治水の面から見てハッ場ダムは必要ありません。又、首都圏の水需要は年々減っており、今後も人口減によりその傾向は続き、利水の面からもハッ場ダムは必要がありません。このように利水・治水の必要性がなく、地質が脆弱で、地滑りを誘発する危険性が高いハッ場ダムを利根川河川整備計画から削除して頂きたい。

巨額な費用と時間がかかるスーパー堤防でなく、ハイブリッド堤防技術を導入していただきたい。

この前起こりました中央高速道の笹子トンネルの崩落事故を見ても明らかのように、これからは今までに作ってきた社会資本の維持管理費、更新費が増大していくために新規の社会資本投資が困難な時代になっています。この計画原案に書かれている各事業の実施に必要な費用の見通しを示していただきたい。地方自治法にもあるように、最少の経費で最大の効果を挙げるような実現性のある計画にしたい。今までの一連のやりかたを見ていると、ハッ場ダムを作らなための計画原案のように思えてなりません。本当に必要な事業を精査し、環境に配慮し、生物多様性を重視した利根川水系河川整備計画を策定して頂きたいと心から思います。